



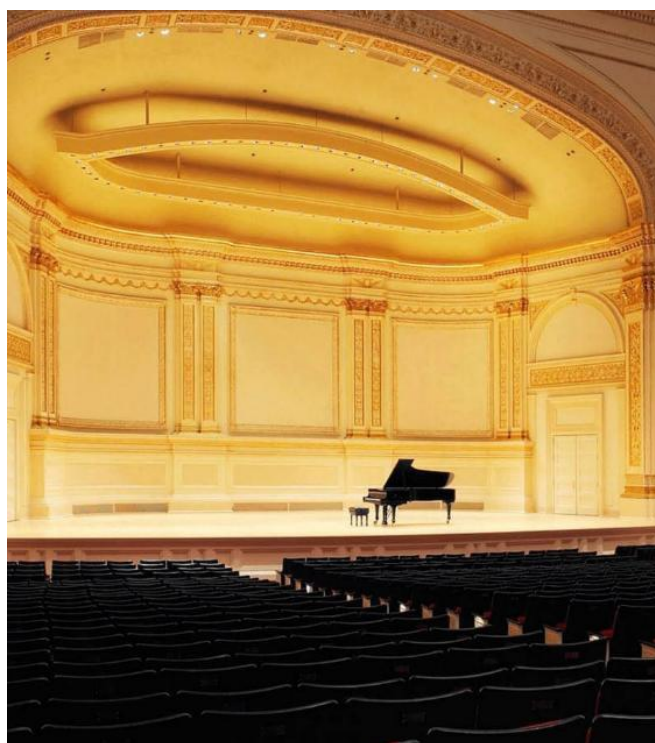
STEINWAY & SONS

公共施設におけるスタインウェイピアノの 維持管理と更新の考え方

スタインウェイ・ジャパン株式会社

はじめに

公共ホールや文化施設に設置されたスタインウェイピアノは、単なる備品ではなく、地域文化を支える重要な資産です。優れた演奏表現を可能にし、ホール全体に豊かな音を届け、安定した状態で運用されることが求められます。こちらでは、スタインウェイの特徴と、その維持管理のあり方や修理・更新の見極めについてご説明をいたします。



目次

- | | |
|---------------------------|------|
| 1. スタインウェイピアノとは | p. 2 |
| 2. スタインウェイピアノのメンテナンスのポイント | p. 4 |
| 3. 修理の検討について | p. 5 |
| 4. 更新について | p. 6 |
| 5. まとめ | p. 6 |



STEINWAY & SONS

1. スタインウェイピアノとは

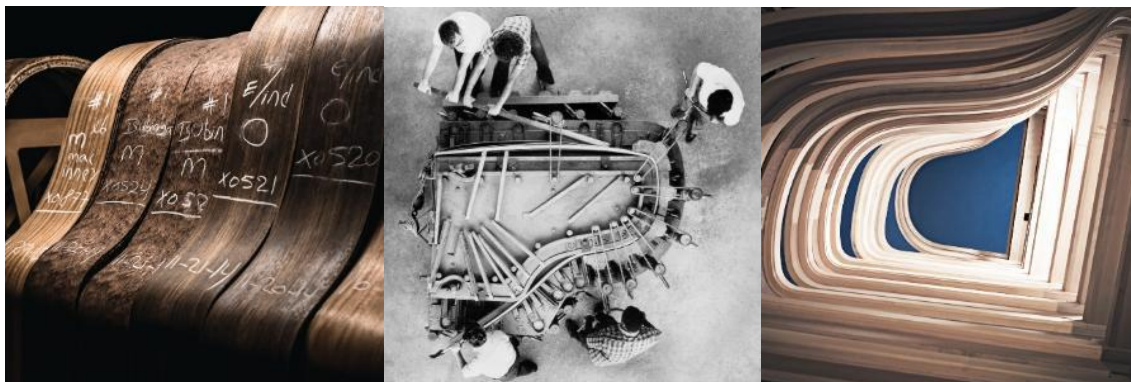
1853年、ヘンリー・スタインウェイがニューヨークに工場を設立して以来、スタインウェイ&サンズは妥協なきクラフトマンシップと革新性により、世界のコンサートピアニストから高い支持を受け続けています。現在も世界のコンサートピアニストの約95%がスタインウェイを選択しており、その豊かな音色、力強い低音、澄み切った高音、長いサステインで知られています。

スタインウェイ・サウンドを支える大きな要素は、厳選された素材と熟練職人による手作業中心の製造工程です。特に「一体成形のベンディングリム」「ダイアフラム構造の響板」「独自設計のアクション」は、その卓越した音響性能を生み出す中核技術です。



一体成形のベンディングリム

ハードロックメープル材を用いた一体成形のリムは、内リムと外リムを同時に成形する独自構造です。他メーカーが内リムと外リムを別々にプレスする中、スタインウェイの一体成形は困難なプロセスではありますが、音の振動エネルギーを効率よく響板へ戻すことで、豊かな音量、長いサステイン、多彩な音色を実現しています。





STEINWAY & SONS

ダイアフラム構造の響板

スタインウェイの響板はアラスカ沖の島からのみ取れる細かく精密な年輪を描く上質なストレートグレインのシトカスプルス材のみが使用されます。また中央から外周に向かって徐々に薄くなる独自構造を採用することにより高い柔軟性と振動効率を実現し、広いダイナミックレンジと豊かな響きを生み出します。



独自設計のアクション

スタインウェイのアクションは、優れたコントロール性と反応性を実現するため、鍵盤の手作業による重量調整から数千点に及ぶ部品の製造まで厳格に管理されています。また、最高級ウールを使用した独自形状のハンマーにより、豊かな音色と高い耐久性を両立しています。その繊細なタッチと優れた連打性能、豊かな音色のパレットとダイナミックレンジは、多くのスタインウェイ・アーティストから高く評価されています。





STEINWAY & SONS

2. スタインウェイピアノのメンテナンスのポイント

クラフトマンシップの粋を集めて作られたスタインウェイは非常にデリケートな楽器ではありますが、適切なメンテナンスを行うことによって長い期間良好な状態を保つことができます。長期的な性能維持には、①定期的な保守点検、②計画的な調律・整調、③適切な温湿度管理が不可欠です。これらを継続することで、楽器寿命の延伸と安定した運用が可能になります。

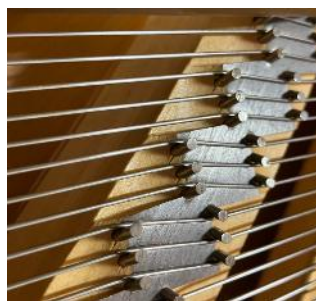
ピアノの性能低下を招く主な要因

ピアノの性能低下は主に経年による部品の劣化や疲労に起因します。代表的なものとして、弦の疲労や断線、チューニングピンの保持力低下、アクション部品の摩耗などが挙げられます。また、ハンマーフェルト、ローラー、鍵盤ブッシングクロスなどの消耗は、タッチや音色の品質に直接影響します。

弦の疲労



断線に伴う弦交換の跡

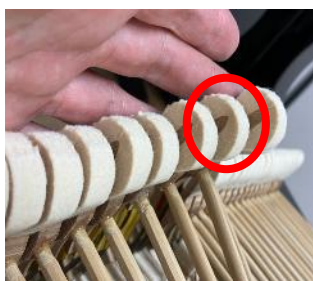


弦の振動を響板に伝える駒



チューニングピン

アクション部品の劣化



ハンマーフェルトの消耗



鍵盤ブッシングクロスの消耗



ハンマーローラーの消耗



STEINWAY & SONS

3. 修理の検討について

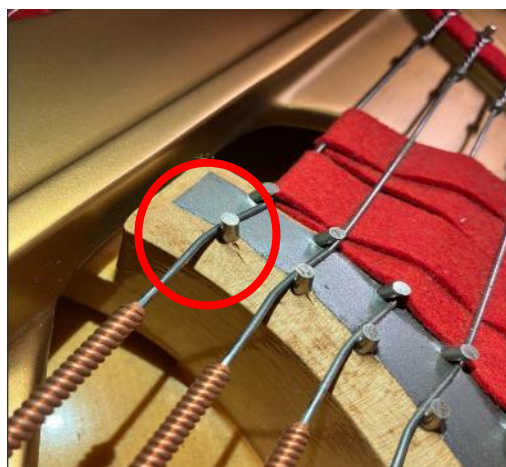
修理には部分修理と全体修理（オーバーホール）があります。部分修理は費用を抑えられる一方、楽器全体のバランス維持が難しい場合があります。オーバーホールは完成度の高い仕上がりが期待できますが、高額な費用と代替機の確保が必要となります。

何度でも修理はできるのか？

ピアノは大部分が木で出来ています。木は温度湿度の変化による影響から経年劣化を避けることはできません。またピアノには交換可能な部品と交換できない部分があります。まず外郭構造は交換できません。また響板や駒の交換は行えると判断した場合も品質保証上、ハンブルクまたはニューヨーク工場での作業となりますので、コストが高額なものとなります。さらにピアノは長年約 20 トンの張力を受け続けることで亀裂や接着不良のリスクが高まります。二度目のオーバーホールは一度目に比べ、楽器としての劇的な性能回復が期待できない場合があるため、メーカーとしては更新を推奨いたします。



響板の亀裂（雑音の原因）



駒の割れ（雑音、断線の原因）



STEINWAY & SONS

4. 更新について

寿命の目安

個人利用のピアノは別とし、ホールでの演奏会レベルの性能を維持できる期間の目安は一般的に 20～30 年です。断線の増加、音量不足、修理を重ねても改善しないバランス不良、響板や駒の亀裂などが見られる場合は、更新の検討が必要です。

更新計画

スタインウェイのコンサートグランド(D274)の新品価格は 2006 年の 1,700 万円から 2026 年には約 3,973 万円へ上昇しました。背景には欧州のインフレ、人件費や原材料費の高騰、輸送費・エネルギーコストの上昇、為替変動があります。更新計画の先送りは将来的な調達コスト増加につながる可能性があります。

5. まとめ

公共施設におけるピアノは長期的な資産として捉え、日常的な維持管理と中長期的な更新計画を両立させることが重要です。計画的な投資により、利用者や演奏家に高品質な音楽体験を継続して提供することができます。

スタインウェイ・ジャパンではお客様のホールでのピアノのメンテナンスに関するご相談、修理・更新計画作成のお手伝いをしております。お気軽にご相談ください。

メンテナンス・修理などに関するご相談：ps-tech@steinway.co.jp

購入相談窓口：institutions@steinway.co.jp